ほんものの体験交流で

教育旅行高等学校特集にあたって

ニュージーランドでの地震に続き、3・11未曾有の東北関東大震災が起こり、町が壊滅したり、犠牲者が万人の桁になるなど、史上最悪の自然災害とも言えるような被害をもたらした。加えて、福島第1原発の爆発や火災後の放射能漏れは、関東圏の計画停電や物資不足にまでも影響を及ぼした。この国難に対して迅速に対応し一刻も早い安全の確保に努めてほしい。この紙面に掲載される予定だった岩手県の太平洋沿岸地域に位置する久慈市と田野畑村にも甚大な被害をもたらした。震災での犠牲者の冥福をお祈りすると同時に、被災地域に対してお見舞いを申し上げたい。1日も早い復興を願わずにはいられない。

教育旅行を取り巻く環境も大きく変わろうとしている。航空機の機材縮小は1校で数コースに分かれて実施する形態をさらに進めるであろう。また、厳しい経済情勢は家計も同様で保護者負担の軽減を考慮すると、方面別、金額別という方法も生じる。大量輸送が可能な新幹線利用やオールバスにも移行されるであろう。さらには、交通費を抑えて近くてもいいから内容重視になる。例年踏襲型の物見遊山の観光地めぐりの時代ではない。また、息抜きや遊びも必要と遊園地やテーマパークでは情けない。固定概念は打破し、今こそ教育を見据えた修学旅行が必要である。

体験交流型の教育旅行では自然体験、農林水産業や商人体験、民泊、味覚、伝統工芸、歴史文化などの分野でインストラクターやガイドあるいは担い手高齢者ら、人とのかかわりはコミュニケーション能力を高め、交流から感動につながり、心高めることになる。「高校時代に生きた証になる」そんな「ほんものの体験」が必要な時代である。テーマパークでは泣かない。しかし、田舎や農山漁村での交流からは感動で涙する生徒を見続けている。生徒の人生に大きく影響を与える素晴らしい事業にするために、受ける地域もその理念を理解し、安全で教育効果の高い受け入れのために努力しなければならない。次の掲載地域は実績も信頼もあり、教育旅行の適地として推奨したい。

体験教育企画
代表　藤澤安良

北海道・標津

交流の里～知床しべつ 感動体験

北海道の最東端部で根室海峡沿岸の中央部に位置する標津町（しべつ）は、人口約5800人、目の前24キロメートルの根室海峡洋上には北方領土国後島が浮かび、左には世界自然遺産の秘境知床半島が一望でき、その山並みは半島基部を形成する当町の西側背後まで連なり、右にラムサール条約登録湿地に指定され、丹頂鶴、オオワシなど野鳥の宝庫として名高い野付半島、背後にはミルクの里の雄大な牧草地群が広がる大酪農郷が形成されるなど、風光明媚な地です。

当町は、北海道らしい雄大で恵まれた自然環境のもと、国内屈指の漁獲を誇る秋鮭やホタテ貝を主力とする漁業と、これを原料としたイクラ、鮭加工、ホタテ製品などを製造出荷する水産加工業と、広大な牧草地で約2万頭の乳牛により牛乳を出荷する酪農業を基幹とした「生産の町」です。

こうした基幹産業や恵まれた自然を背景に、都市住民との交流の活発化による地域活性化を図ろうと、漁協、農協、商工会、観光協会、旅館組合など18団体が連携し「エコツーリズム」事業を展開しています。

来訪者からは、北海道らしい産業体験や自然体験が可能との評価を頂き、京都、大阪、東京、滋賀、神奈川など全国各地から、小学生から高校生までの修学旅行を中心に多くの皆さんを受け入れ、産業や自然を活用したオリジナルのプログラムによる交流体験活動が行われています。

プログラムは、地域の生活や産業、食や遊び（自然）などの地域素材を活用したメニューで、他の地域との差別化に努めております。

また、受け入れの対応では地域の各分野の名人がガイドとなり（ガイド養成講習など受講者）体験活動が行われます。

宿泊施設は大規模な施設がないなど不利な点をプラスに転じ、小さな宿ならではの利点を生かした、心のこもった地場産品活用メニューや体験食事、アットホームな雰囲気づくりでもてなしており、生徒の皆さんや先生たちにも大変喜ばれております。

体験プログラムは、食の安全、安心の食料生産供給システム「地域ハサップ」の取り組みが契機となり活発化が図られました。

このシステムは、国内で初めてとなる漁獲、市場、加工、流通まで一貫して行う高度な衛生管理で取り扱う「ハサップ手法」を学習の場として活用、体験し、地域の人々との交流により学ぶことで、高い学習効果が得られると評価も高まってきており、近年は大学のフィールドスタディとしても活用されています。

また、日本で初めて実現した知床の大自然の中での忠類川サーモンフィッシングやイクラづくり、ホタテ貝の貝剥き体験などの食体験、牧草地で営まれる酪農業の体験コース（ファームステイ）や冬のスノーシュートレッキングなど、自然、産業、食を中心に充実した受け入れを行っています。

目的や日程、人員に沿った企画やスケジュールの提案もさせていただいており、提案から受け入れまで「標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会」（事務局＝標津町役場商工観光課）が責任をもって対応します。

羽田からは直行便でたった90分。修学旅行でなければできない貴重な時を豊かな自然と産業が調和した「交流の里 標津町」で過ごされてはいかがでしょうか。

水産加工体験の１つイクラづくり

酪農体験（ファームステイ）

じゃがいも掘り体験

スノーシュートレッキング

標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会
〒086-1632 北海道標津町北2条西1丁目1番3号
TEL 0153-82-2131　FAX 0153-82-3011
E-mail:kankou@shibetsutown.jp

新潟県・上越市・十日町市

体験と交流で、人と人を「つなぐ」

越後田舎体験

私たち越後田舎体験では自然と自然のつながり、自然と人とのつながり、人と人とのつながりを大切に考えています。そのさまざまなつながりを暮らしや体験、人との交流の中から肌で、心で感じてもらえるような受け入れができればと願っています。

特に民泊（ホームステイ）では長い時間、民家の方と過ごす中で生徒が感じるものがあるようです。越後田舎体験のエリア全体で400軒以上の民家の協力を得て、民泊（ホームステイ）の受け入れを行っています。受け入れのピークは5月や7月中旬です。

受け入れにご協力いただく多くは高齢者。だからこそ、伝えるべきことは多いようです。普通の田舎の風景、暮らしの中で、忘れがちな自然への配慮、人への思いやり、生きることの大切さを短い時間の中で伝えていきます。各地域では受け入れのための研修会や反省会、あるいは視察や学校訪問なども実施し、地域の連携を図りながら、自分たちも楽しんでこの事業に取り組んでいる姿がうかがえます。

これからも「楽しかった。また来てほしいね」といった気持ちが残るような受け入れを行っていきたいと思います。ぜひ、田舎のおじいちゃん、おばあちゃんに会いに来てください。

お勧め体験プログラム

農村生活体験（民泊）

各民家での暮らしを体験し、人への思いやり、生きることの大切さを学びます

○民泊（ホームステイ）
協力戸数　400戸×3・5人＝1400人

米作り

汗を流して米づくりを体験し、自然と人の関係や思いやる心を育てます

漁業体験

地引網・魚のさばき、干ものづくり、乗船……漁師さんの普段の作業を体験します

自然体験

自然の中で美しいもの、優しいもの、厳しいものなどを興味深く観察します

田植え用の苗を運び（上）そして田植えまでの農作業体験

ホームステイ先でのだんご作り

乗船体験（上）、ハイキングインストラクター研修会

越後田舎体験の特徴

①日本海の長い海岸線と、米どころ新潟の広い平野、そして棚田やブナ林がある日本の原風景が残る中山間部を持つ越後田舎体験のエリアは、自然・環境・歴史民俗学習の適地です。

②あらゆる体験プログラムは土地の人がインストラクターとしてかかわります。

③企画コーディネート（手配、連絡、調整、精算）は協議会事務局で承ります。

④広域で仲間が連携、協力して受け入れを行います。

越後田舎体験推進協議会
通常営業時間　8：30～17：30（月～金、祭日・年末年始等休み）＊時間外でも電話してみてください
〒942-0411 新潟県上越市安塚区安塚722-3
雪だるま財団内
TEL 025-592-3988　FAX 025-592-3324
E-mail:taiken@yukidaruma.or.jp
http://www.echigo-inakataiken.jp/

長野県・南信州

人の心温かく、瞳輝く時 感動体験南信州

南信州の風景

人と触れ合う民泊で思い出の一コマ

南信州は中央・南両アルプスの間に天竜川が流れる巨大な谷であり、そこに住む人々の気質は大変穏やかです。当地域では1996年から体験教育旅行を受け入れ、2001年に公社を設立し、現在年間110を超える学生団体を受け入れております。体験プログラムは自然、環境、農業、味覚、伝統工芸、アウトドアスポーツなど多くの分野にわたり、種目数は165種目を数えております。

基本的な理念は、地域に暮らす人々の生業やありのままの暮らしの中に直接飛び込んで、援助や指導を受けながら体験者と受入者が体験を共にし、その交流を通して互いに感動し、高まり、そしてしだいに人間関係の構築の好機となるものが本物の体験であると考えています。

中でも農家民泊は年々受け入れ数も増え続けており、「帰ってきたら朝ごはんを食べるようになった」「野菜を食べるようになった」「息子が久しぶりにいろんなことを話してくれた」などと保護者の方々からの御礼の言葉も数多く届いております。半日、1日、1泊と一つ一つのプログラムがゆったりとしたペースとした言葉がけになどに感動することが多く、それが受け入れを続ける動機付けにもなっています。いわば双方にとって貴重な体験交流の場づくりともなっております。

現在農家民泊の受け入れを支える受入農家は南信州15市町村で400軒を超えており、08年度は年間69校1万500人を超える生徒さんを受け入れました。一般家庭に泊まることは、互いに気づかう心が生まれ、現在の社会に求められる人間関係構築能力を高めるには絶好のプログラムです。

今最も多い組み合わせは1日目から2日目の午前にかけて農家民泊＆農家体験、2日目の午後にアウトドアスポーツ体験を行い温泉旅館での宿泊、3日目は味覚体験や伝統工芸体験からの選択という形です。南信州の人と自然と文化を目一杯体験できる組み合わせです。

教育旅行の受け入れにあたって

現在この事業に協力いただいている方々は全体で1千人を超えており、数多くの学校団体が同時に訪れても受け入れ先が1カ所に集中することはなく、いつも新鮮な気持ちで訪れる人々を迎えております。受け入れを始めて10年を経た経験と実績を生かし、安全で教育効果の高い受け入れをすべく励んでおります。

この受け入れは、教育あるいは社会に貢献するという誇りと責任を感じ、それを大いなる喜びと捉え、これからも受け入れを続けていきたいと考えております。

信州名物の五平餅作り

名人と共に渓流釣り

株式会社南信州観光公社
〒395-0512 長野県飯田市育良町1-2-1
りんごの里内
TEL 0265-28-1747　FAX 0265-28-1748
http://www.mstb.jp/